

C. 研究結果

① 回収状況

1) 都道府県・指定都市(主管部局)など AIDS 担当主管部局総数 59 ヲ所(政令・中核市, 特別区は除く)のうち回収数は 51 ヲ所(回収率 86.4%)であった。

2) 保健所総数 594 ヲ所(支所は除く)のうち回収数は 398 件(回収率 67.0%)であった。

② 調査結果の概要

1) AIDS-NGO を「社会資源として活用できる」と回答した機関は 83%であった。

2) 実際の施策において「AIDS-NGO を活用している」との回答は 33%であった。

3) 地域で活動している AIDS-NGO の情報をもっている機関は 50%であった。

4) AIDS-NGO の一覧(全国)を希望する機関は 86%であった。

5) 「特に力を入れている」対象は「若者」が最も多く(71%), 次いで「教育関係者」(37%)であった。「PWA/H」の回答は 5%以下であった。

D. 考察

保健所および自治体の多くが AIDS-NGO を社会資源として認識している(83%)が、実際に活用している機関は少なく(33%), AIDS-NGO に関する必要な情報は十分に普及しているとはいえない。

「特に力を入れている対象」は、行政では「若者」が最も多かった。

HIV 感染予防および人権に関する啓発を進める上で、都道府県および保健所などの行政機関による AIDS-NGO の活用は重要な課題であるが、それを阻害しているのは、情報の周知が遅れていることが大きな要因となっている。また、今後、NGO 活動の資質の向上と活用の促進を促すことが重要である。

E. 結論

行政と NGO の連携の現状について、以下の点が明らかとなった。

1) 保健所および自治体の多くが AIDS/NGO を社会資源として認識しているが、実際に活用している機関は少ない。

2) AIDS/NGO に関する必要な情報は十分に普及していない。

3) 「特に力を入れている対象」は、行政では「若者」が最も多かった。

F. 健康危険情報

特になし。

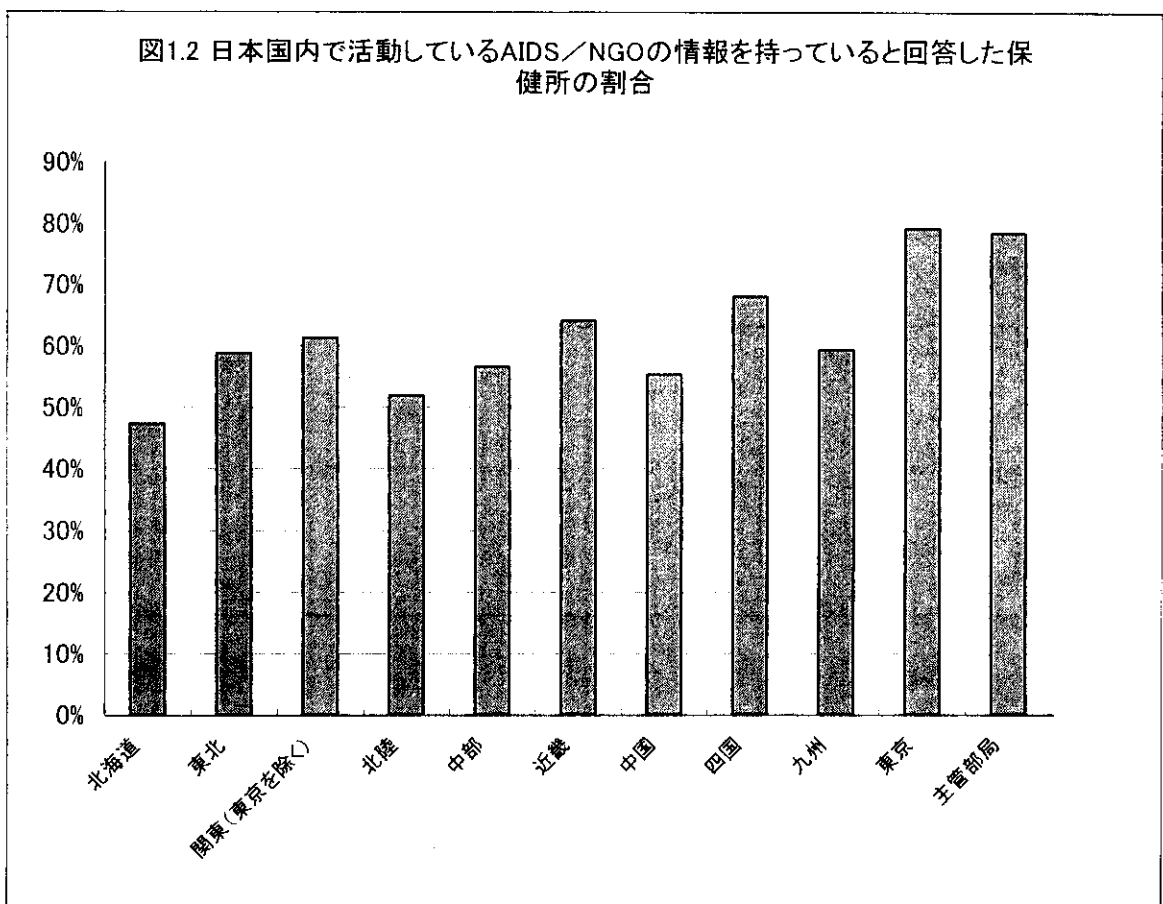
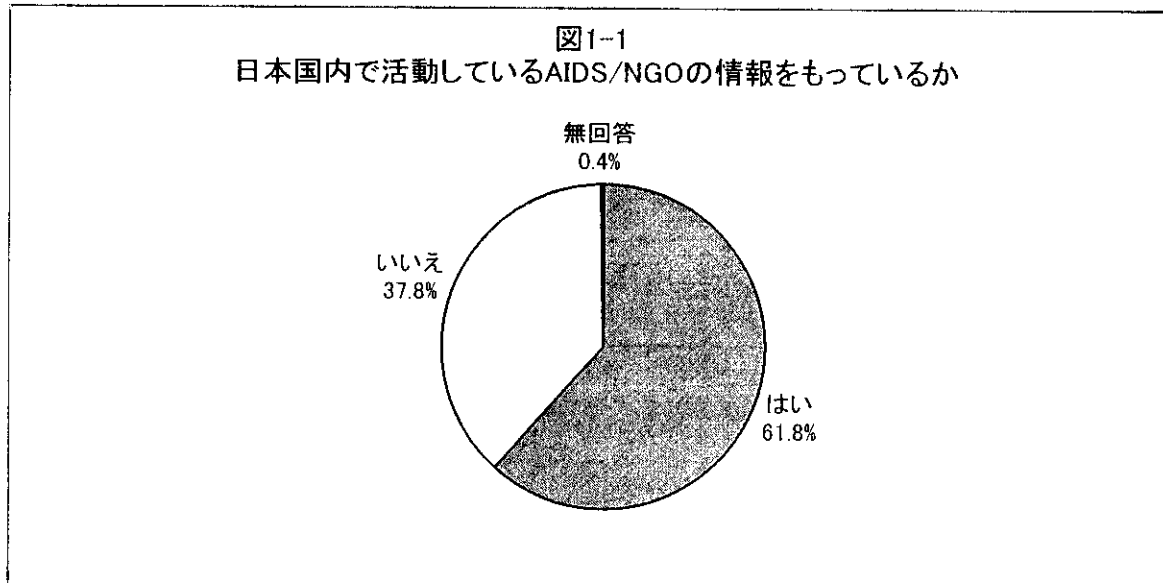
G. 研究発表

- 論文発表
 - 五島真理為：パートナーシップで行う HIV 対策。保健婦雑誌 56(9)；750-754,2000.
 - 五島真理為：HIV 対策における最近の課題と保健婦への期待。生活教育 45(1)；25-32,2001.
 - 五島真理為,伊藤葉子：AIDS 問題におけるソーシャルワーク的視点と課題。社会福祉研究 80：140-143, 2001.
- 学会発表
 - 五島真理為, 伊藤葉子 他：HIV/AIDS に関するヤング・シェアリング・プログラムについての研究—現行プログラムの意義と課題。日本精神衛生学会 第 16 回大会抄録集；27,2000.
 - 五島真理為 ほか：HIV 感染者・家族にたいする支援のプライオリティの判断基準についての試み。日本エイズ学会誌 2(4), 412, 2000.
 - 平松茂, 五島真理為ほか：36 時間全国 AIDS 電話相談にみる相談傾向。日本エイズ学会誌 2(4),371, 2000.
 - 木下ゆり,五島真理為 ほか：HIV 感染者・家族にたいする訪問栄養支援とカウンセリングの試み 2。日本エイズ学会誌 2(4)；413, 2000.
- 研究成果発表会：大阪,東京, 宮城, 愛媛, 岡山, 長野, 北海道, 長崎, 鹿児島, 愛知など, 全国 10ヶ所でのべ 10 回開催した。

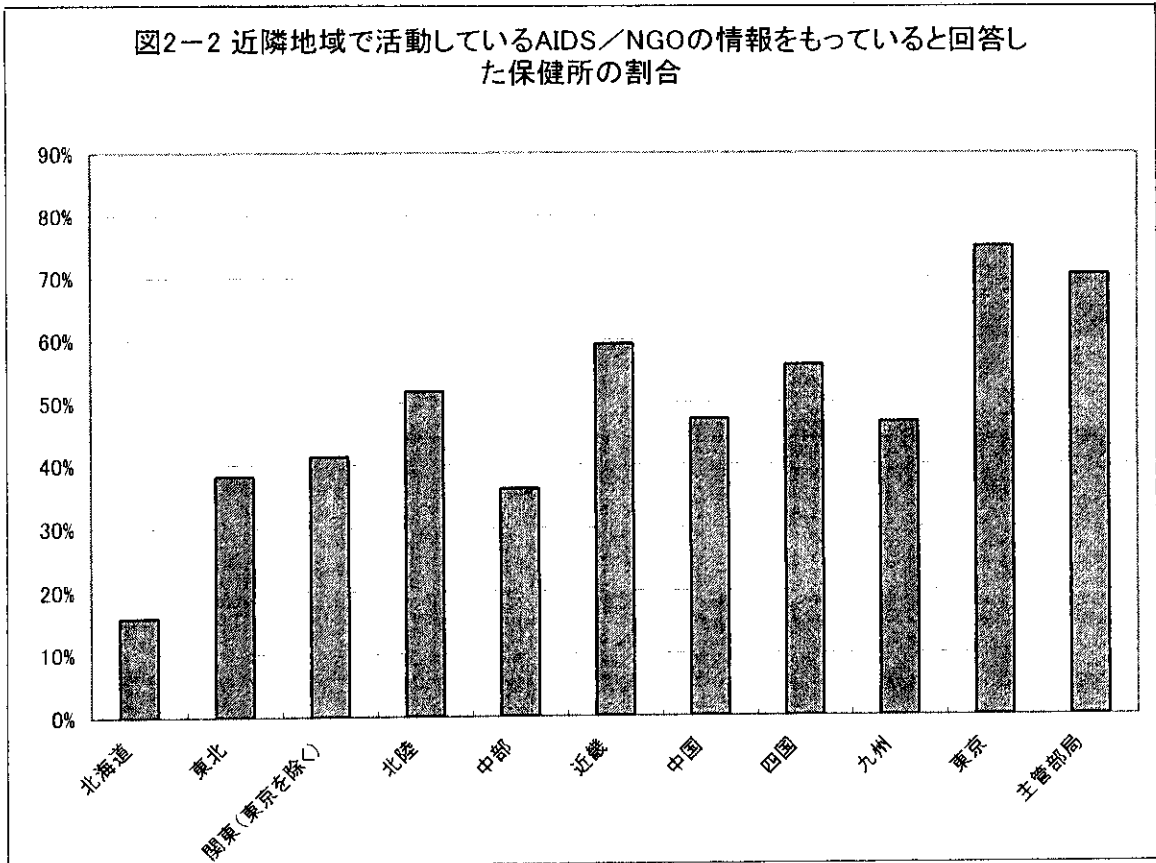
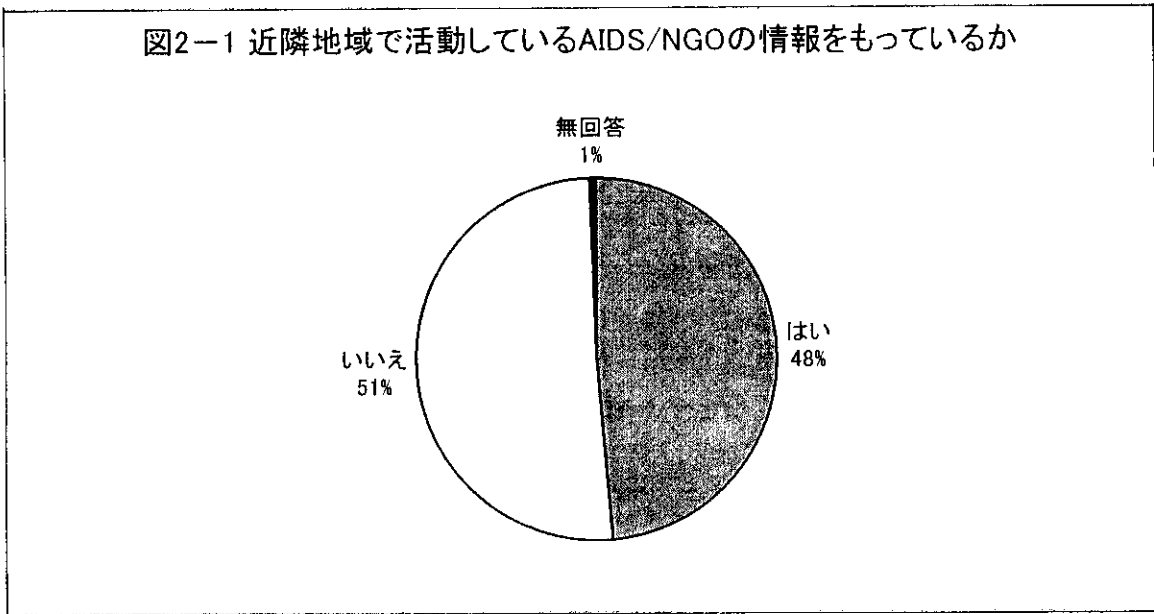
H. 知的財産権の出願・登録状況

- 特許取得 なし
- 実用新案登録 なし
- その他 なし

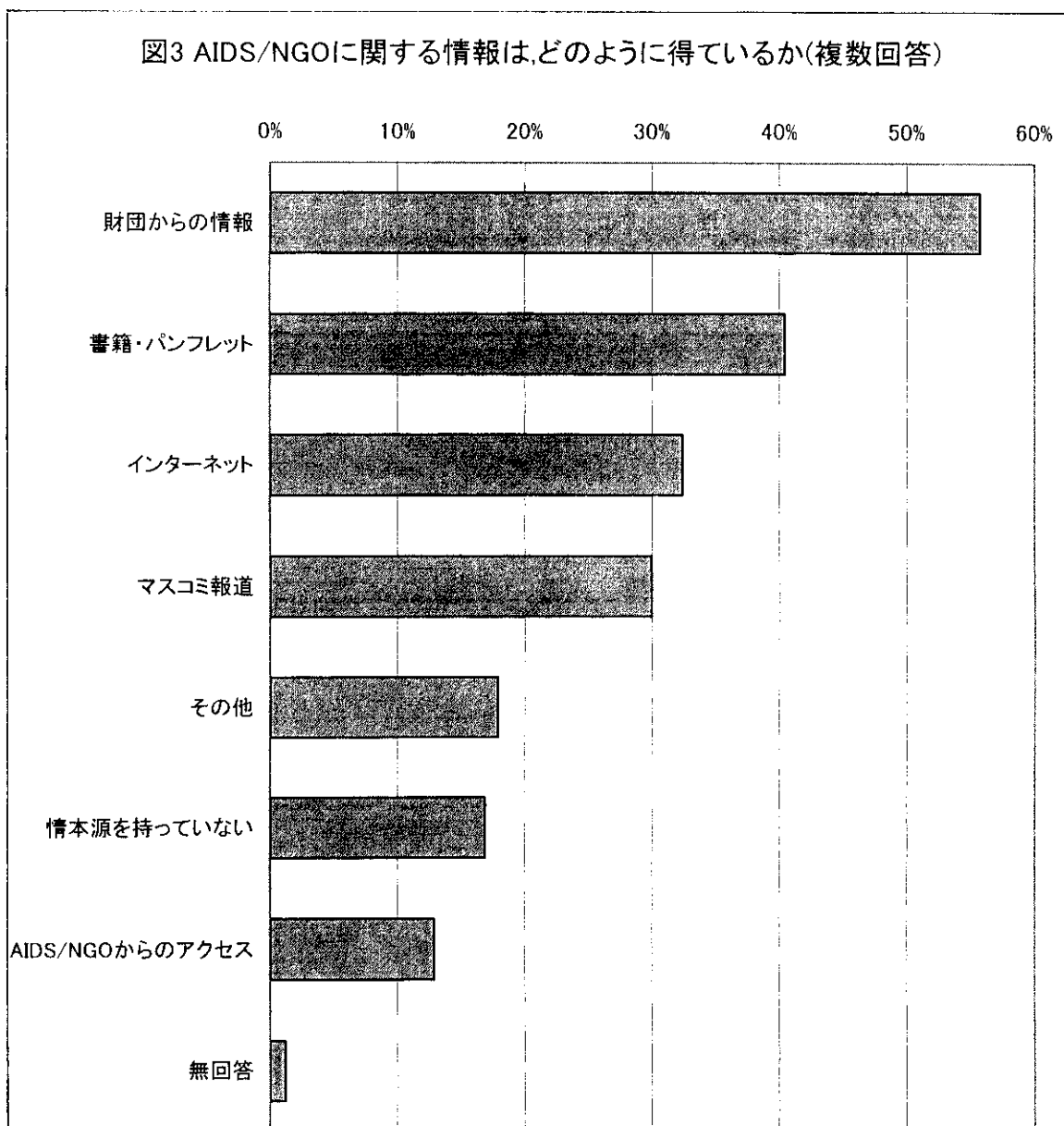
質問 1 特に記載のないグラフはすべて n=497



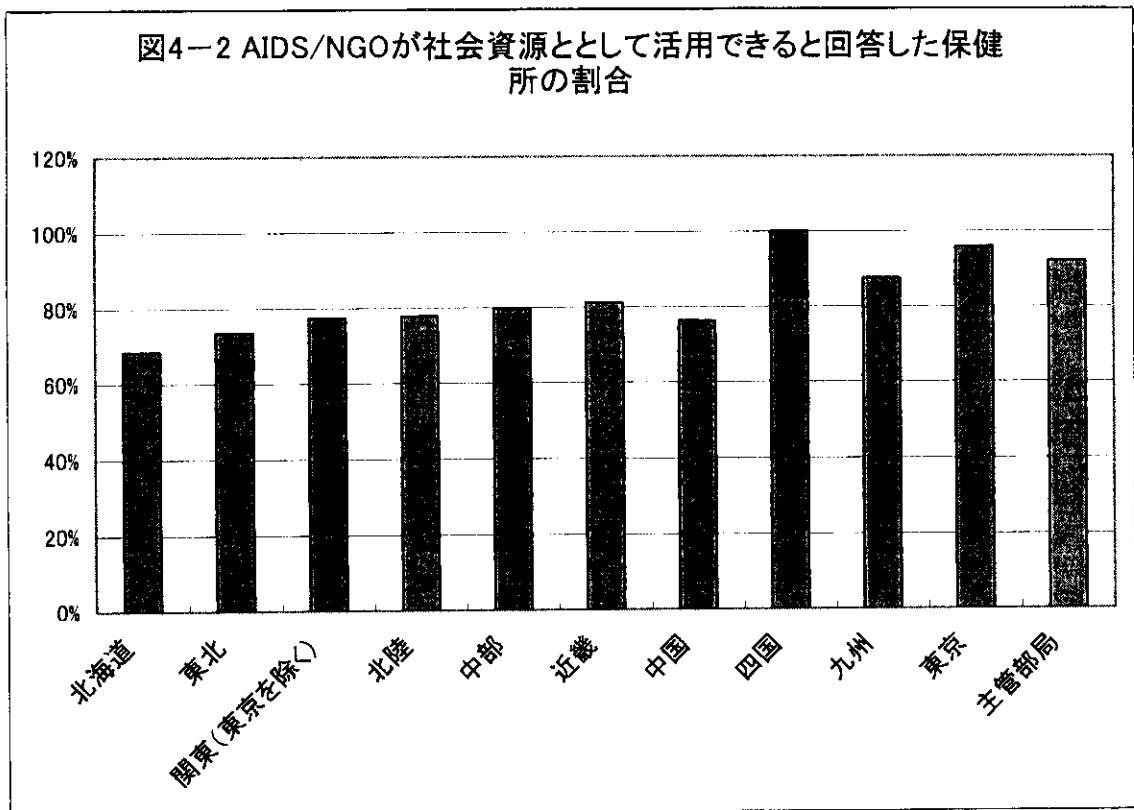
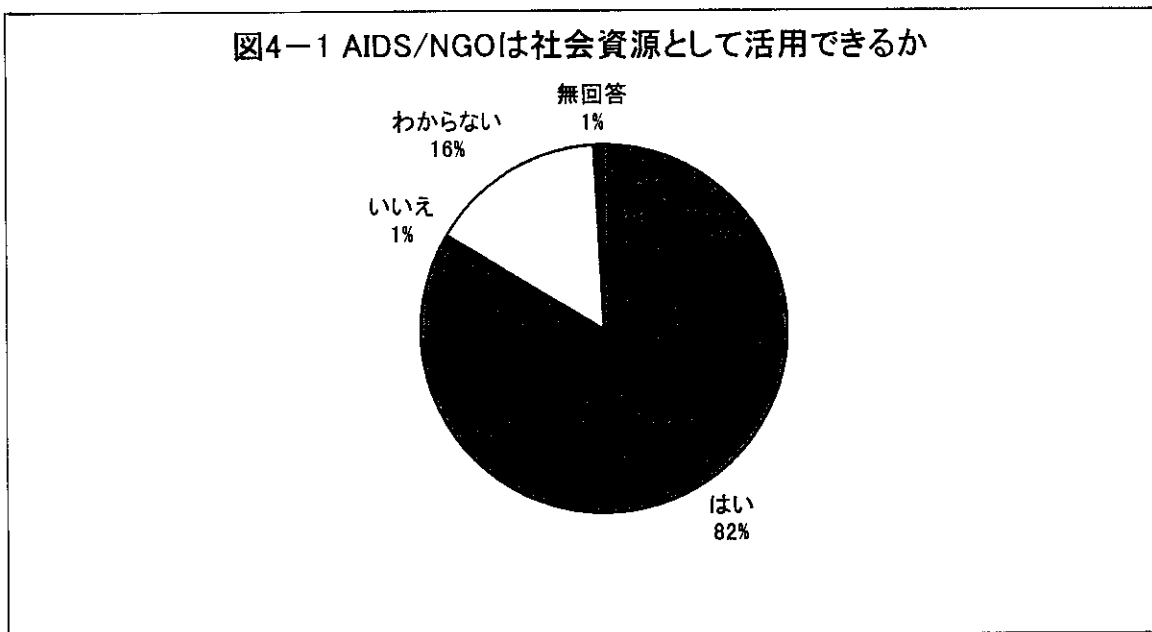
質問 2



質問 3



質問 4



質問 5

図5-1PWA/H等を対象として国内のAIDS/NGOが行っている活動について、具体的に知っているもの

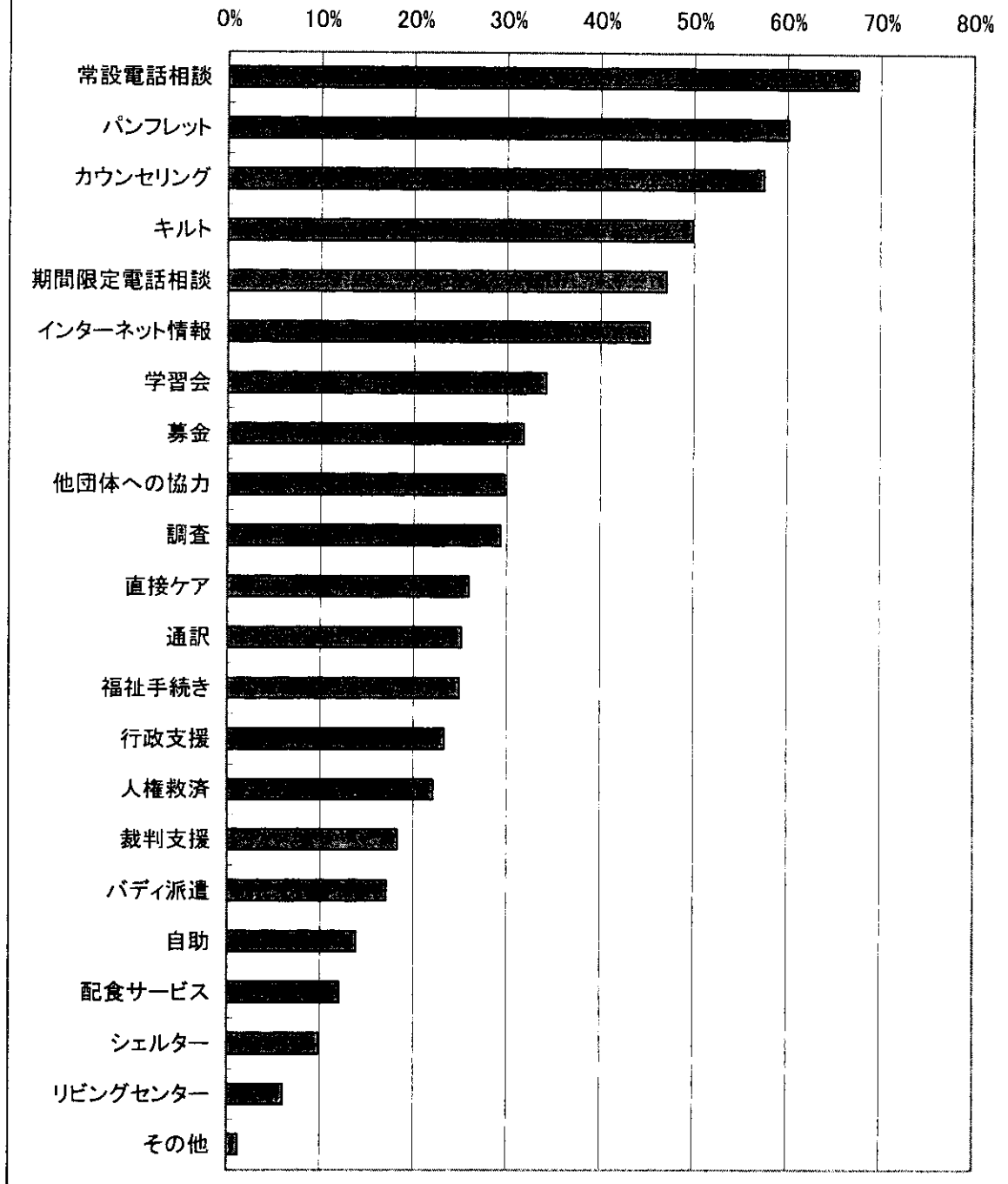


図5-2一般市民などを対象として国内のAIDS/NGOが行っている活動について、具体的に知っているもの

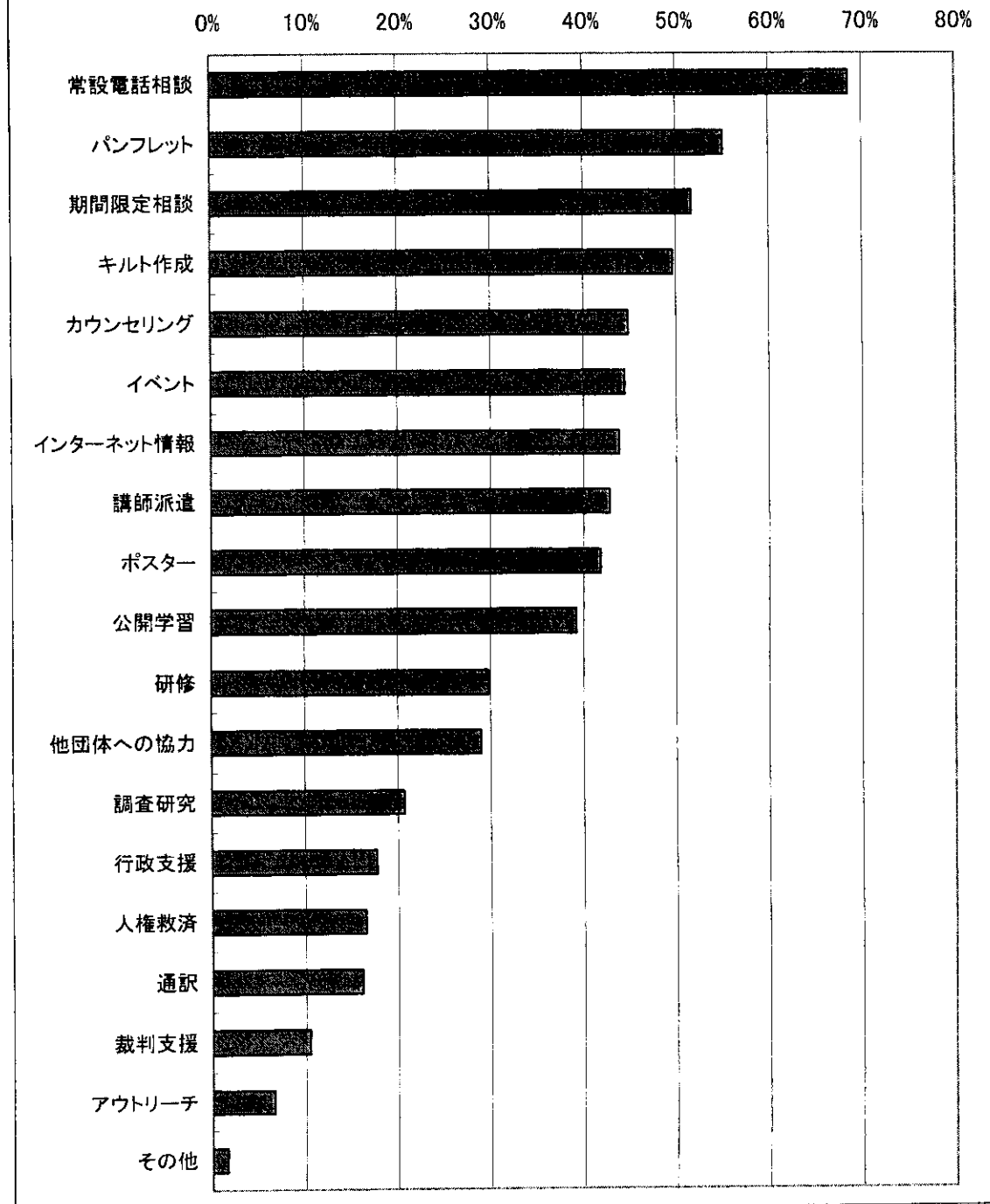


図5-3 PWA/Hを対象とし行っている活動について実際に取り組んでいる
NGOの割合(上段 n=56)と、それを知っている行政機関の割合(下段)

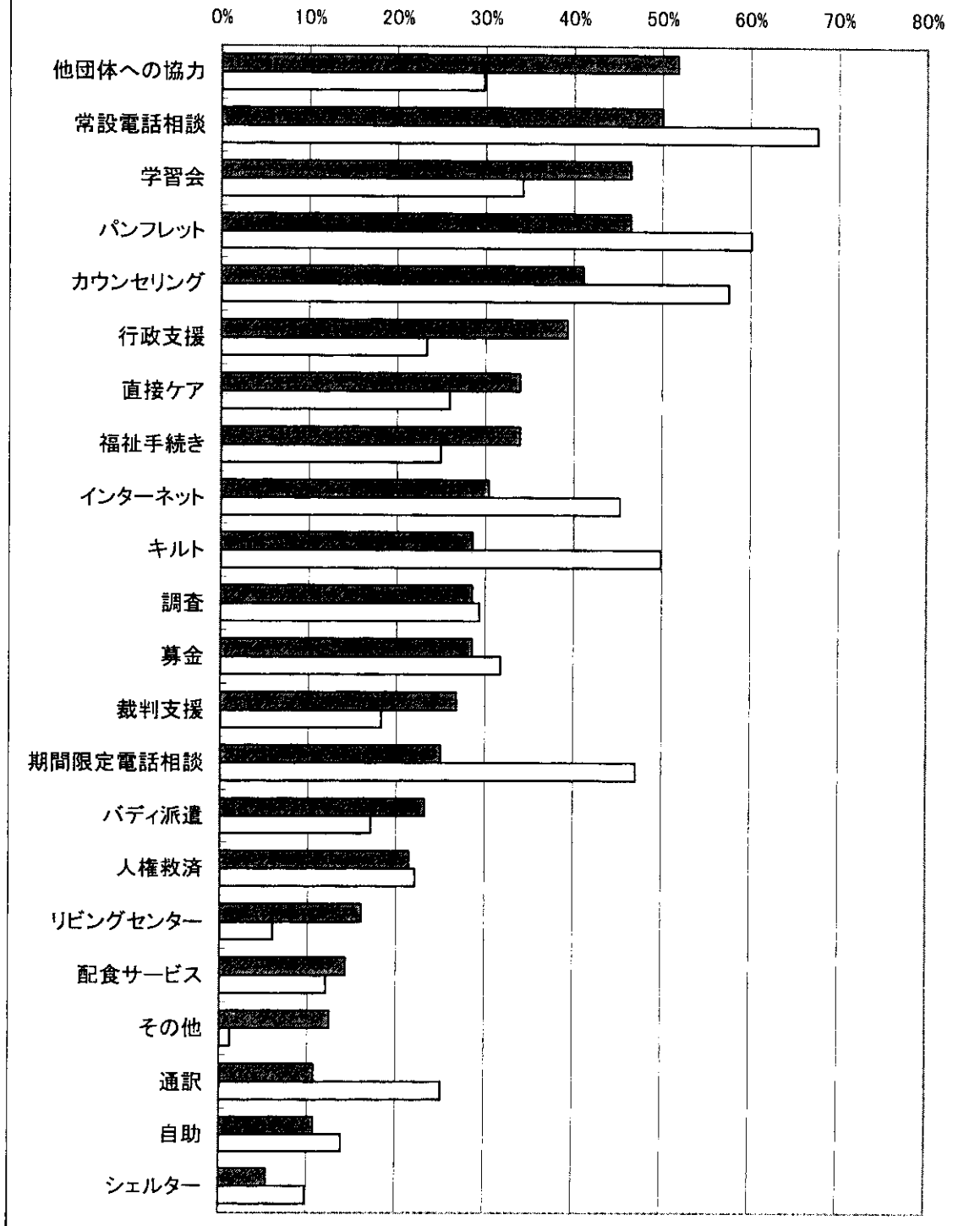


図5-4 一般市民を対象として行ってる活動について、実際に取り組んでいる
NGOの割合(上段 n=56)と、それを知っている行政機関の割合(下段)

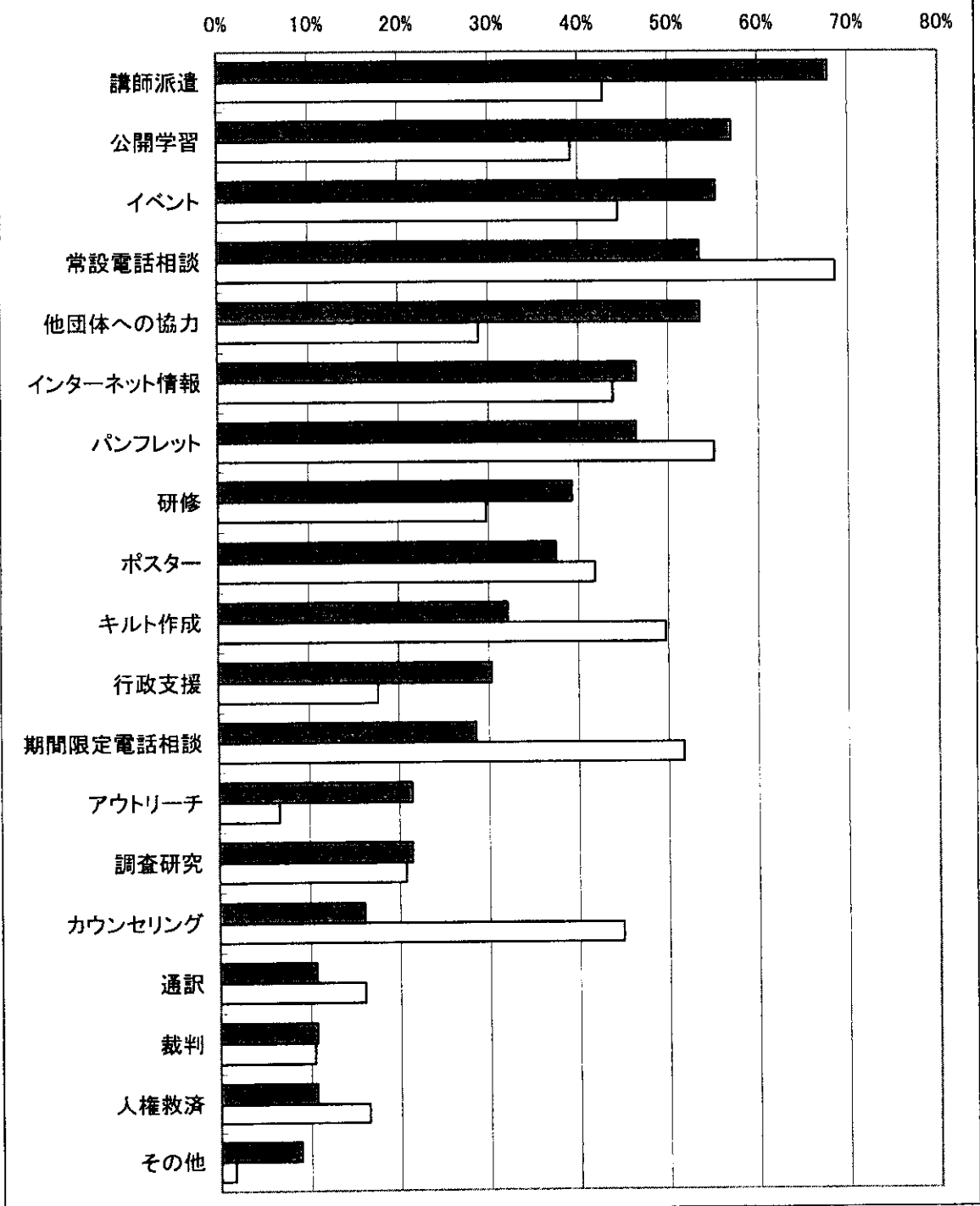
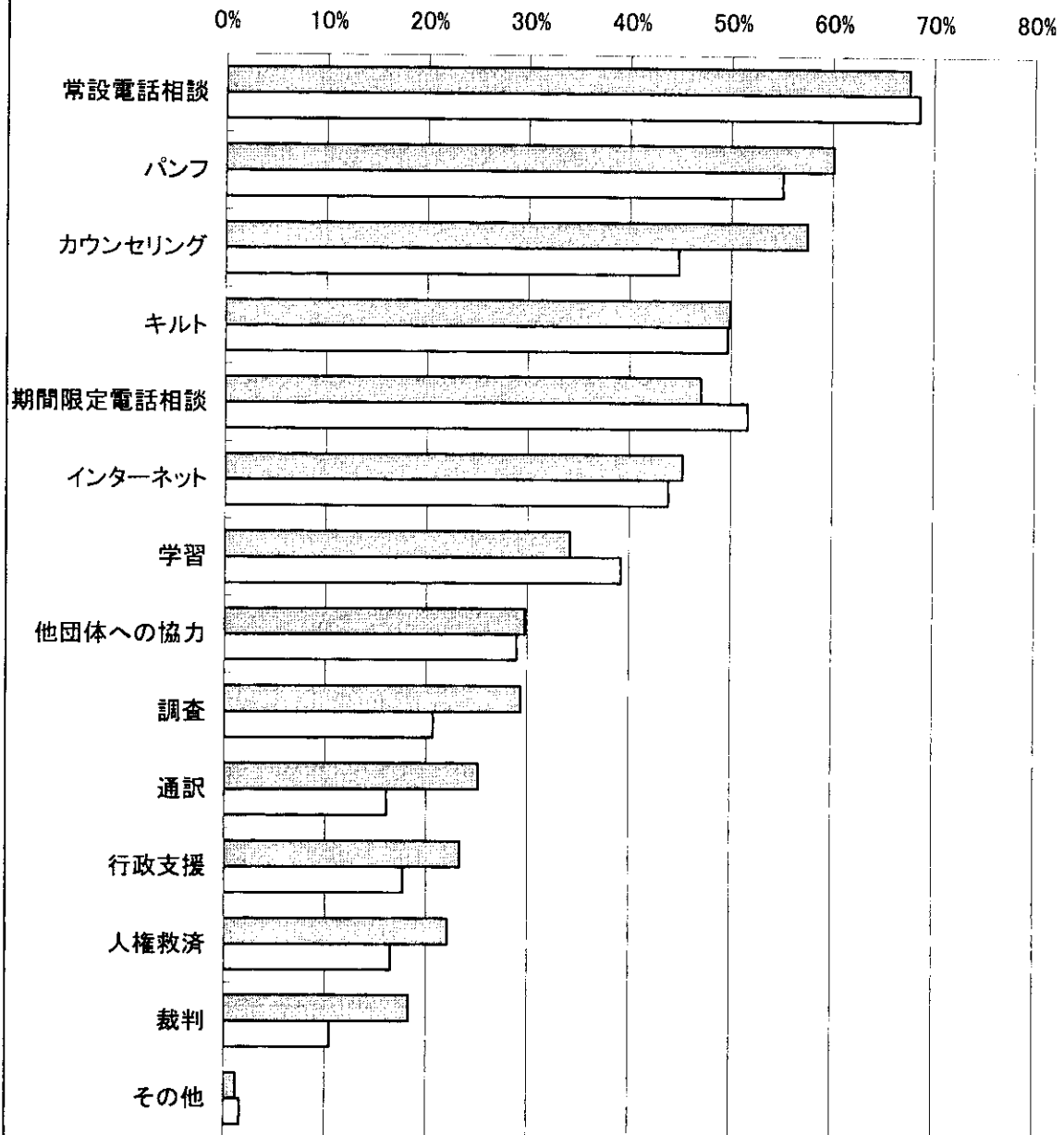


図5-5 PWA/H(上段)と一般市民(下段)の共通の具体的活動を知っている行政機関の割合



質問 6

図6-1 行政機関が特に力を入れているAIDSに関する施策の対象

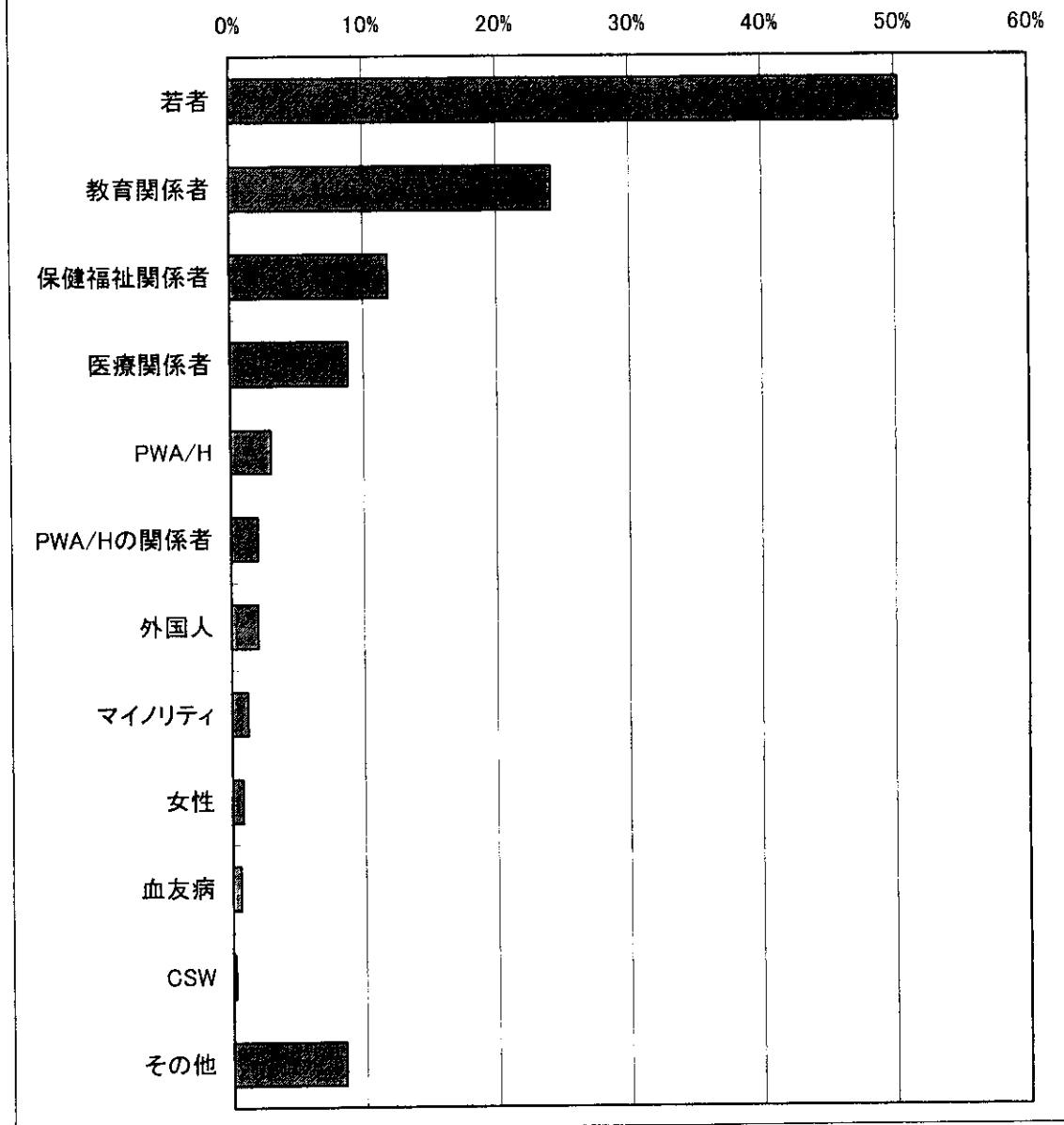
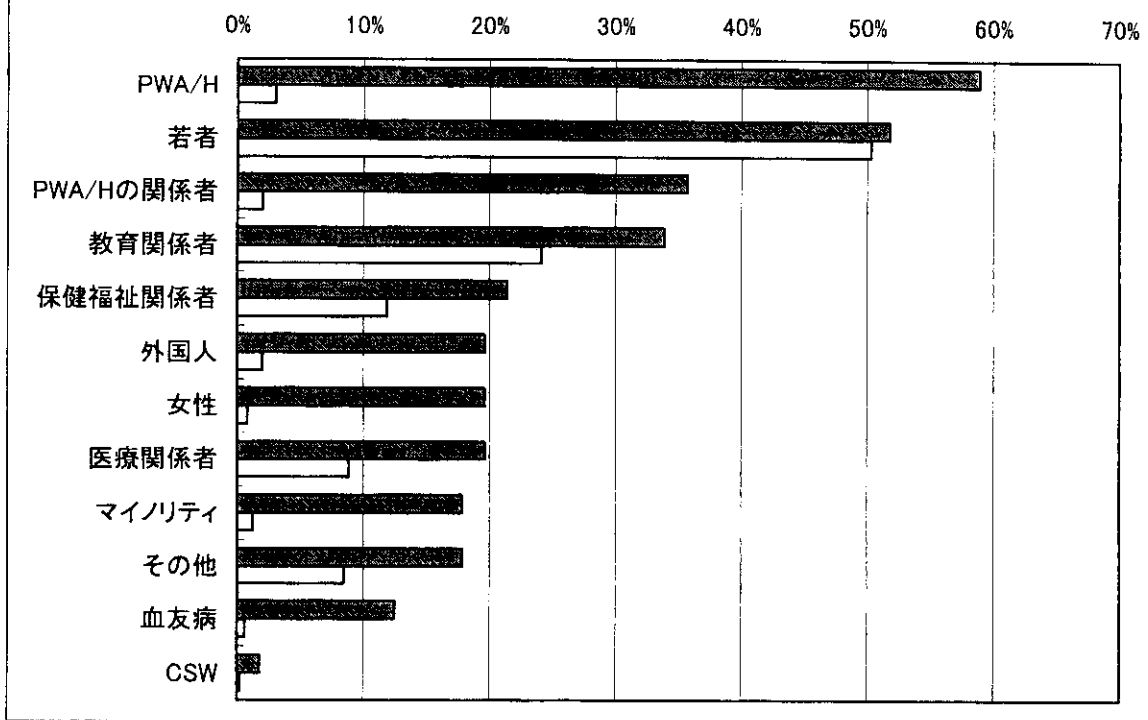
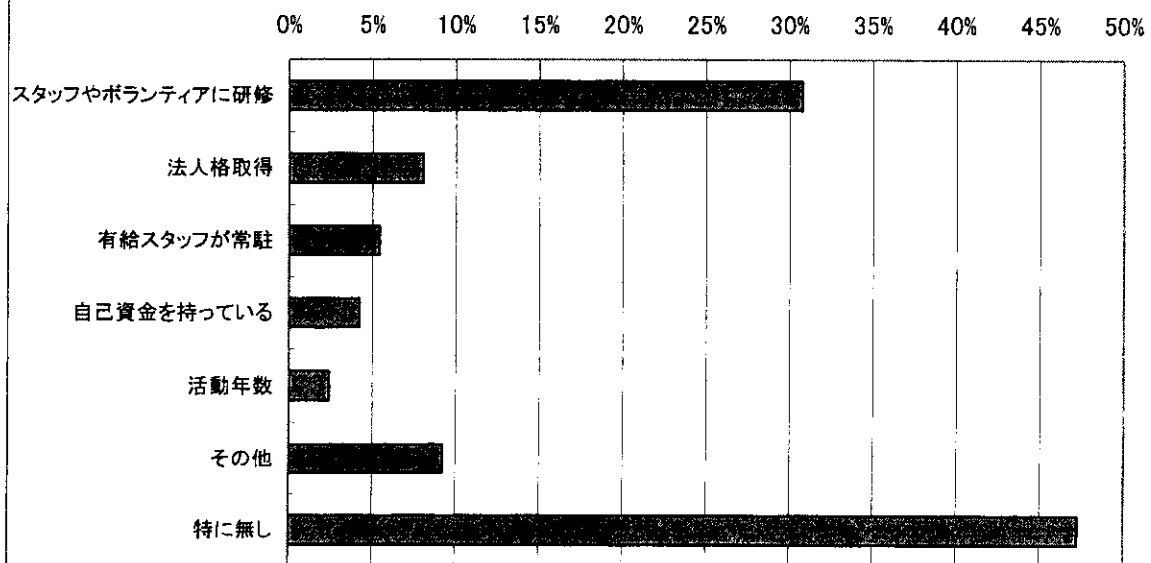


図6-2 対象区分別の見た,特に力を入れているNGOの割合(上段 n=56)と
行政機関の割合(下段)



質問 7

図7 行政機関がAIDS/NGOを活用する場合,NGO側に必要な条件



質問 8

図8-1 AIDS/NGOを活用しているか

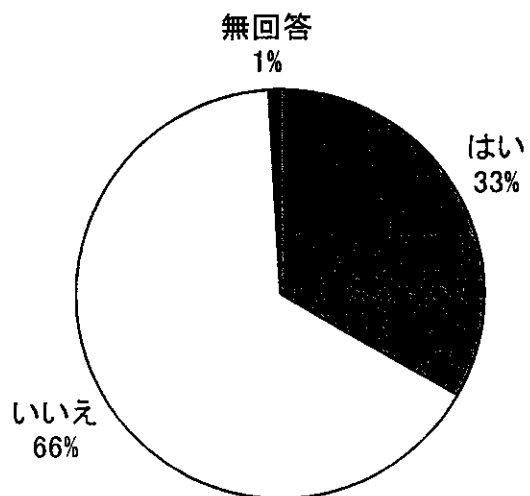
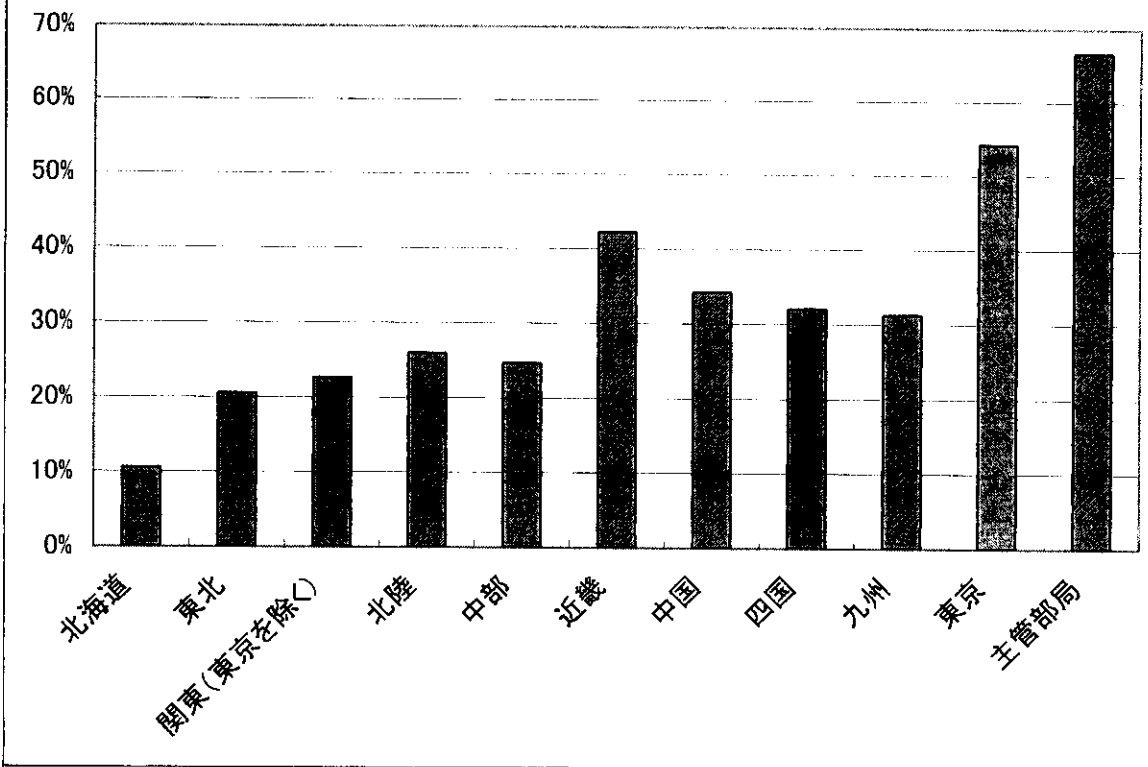
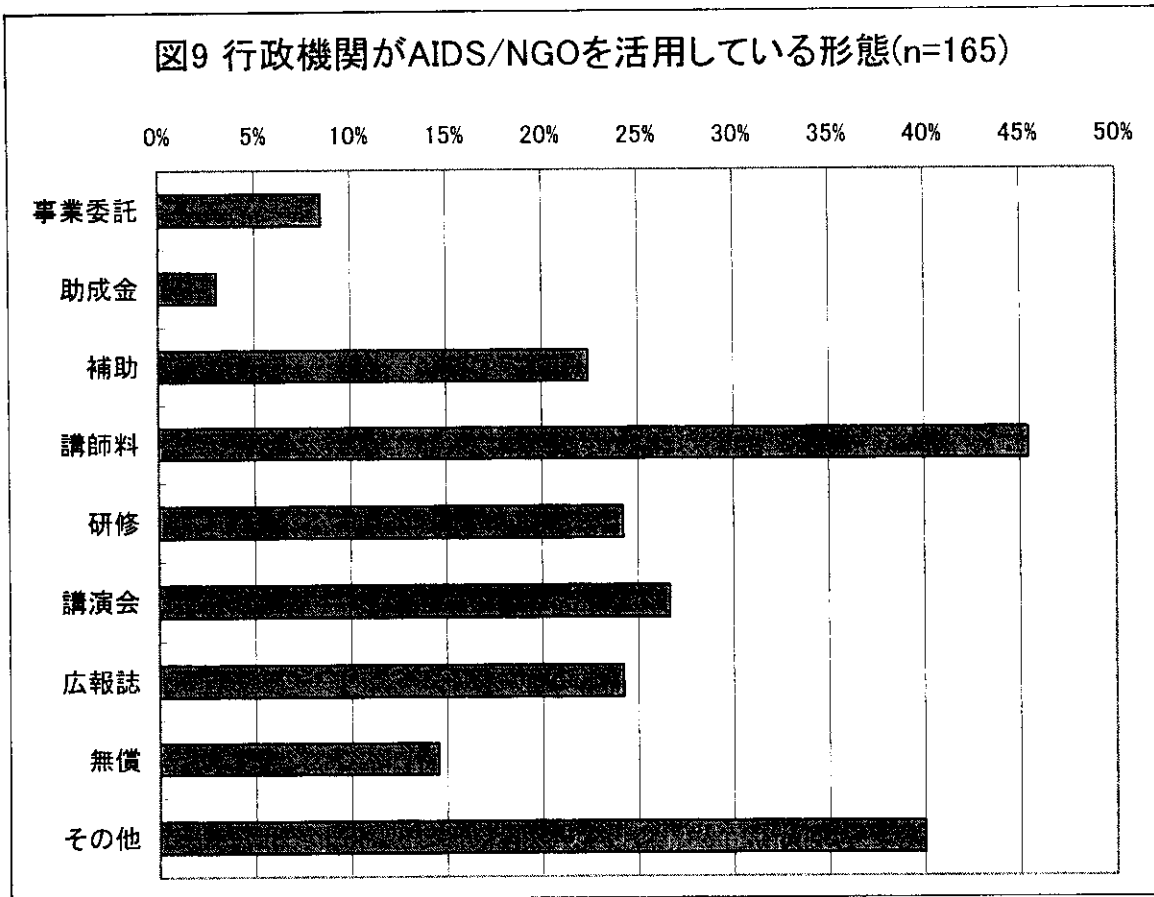


図8-2 AIDS/NGOを活用していると回答した保健所の割合 (n=165)



質問 9



質問 10

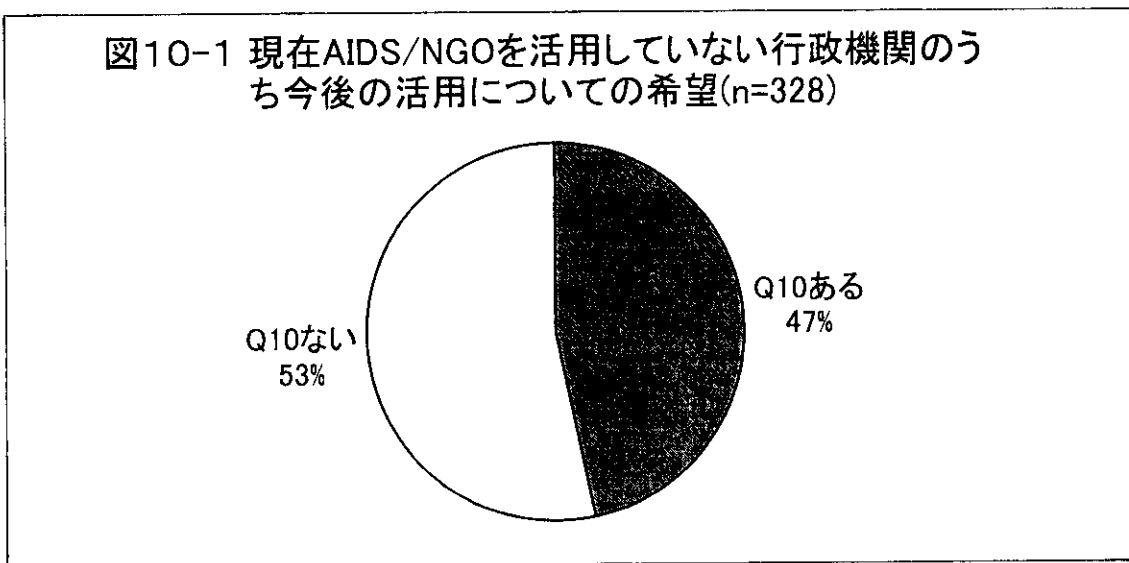
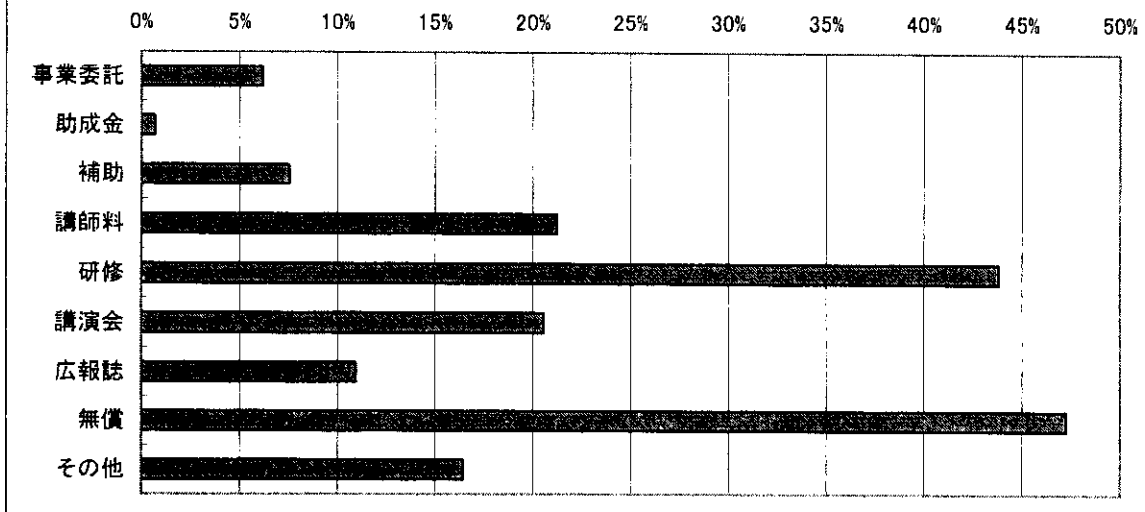
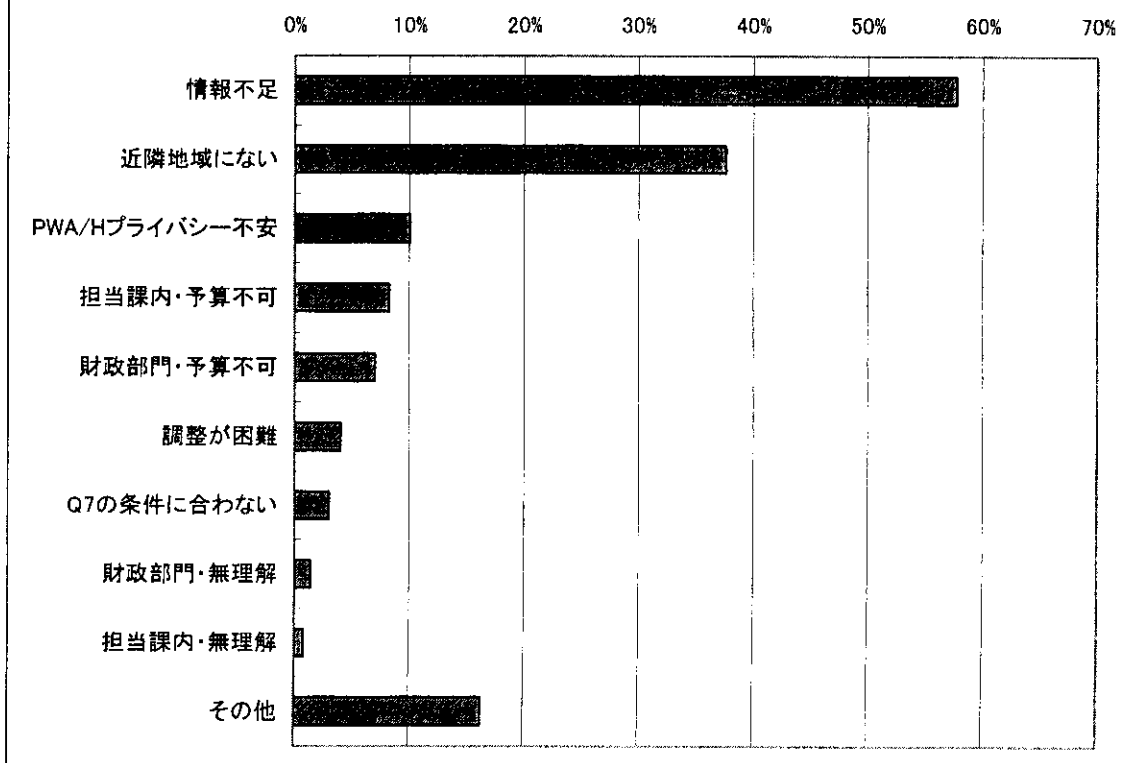


図10-2 現在AIDS/NGOを活用していない行政機関が今後の活用について希望する内容(n = 146)



質問 11

図11 AIDS/NGOを活用する上で、行政機関が直面する困難



質問 12

図12-1 NGOを活用する上での困難を解決するために、考えられる方法（A.NGO側の努力 n=193）

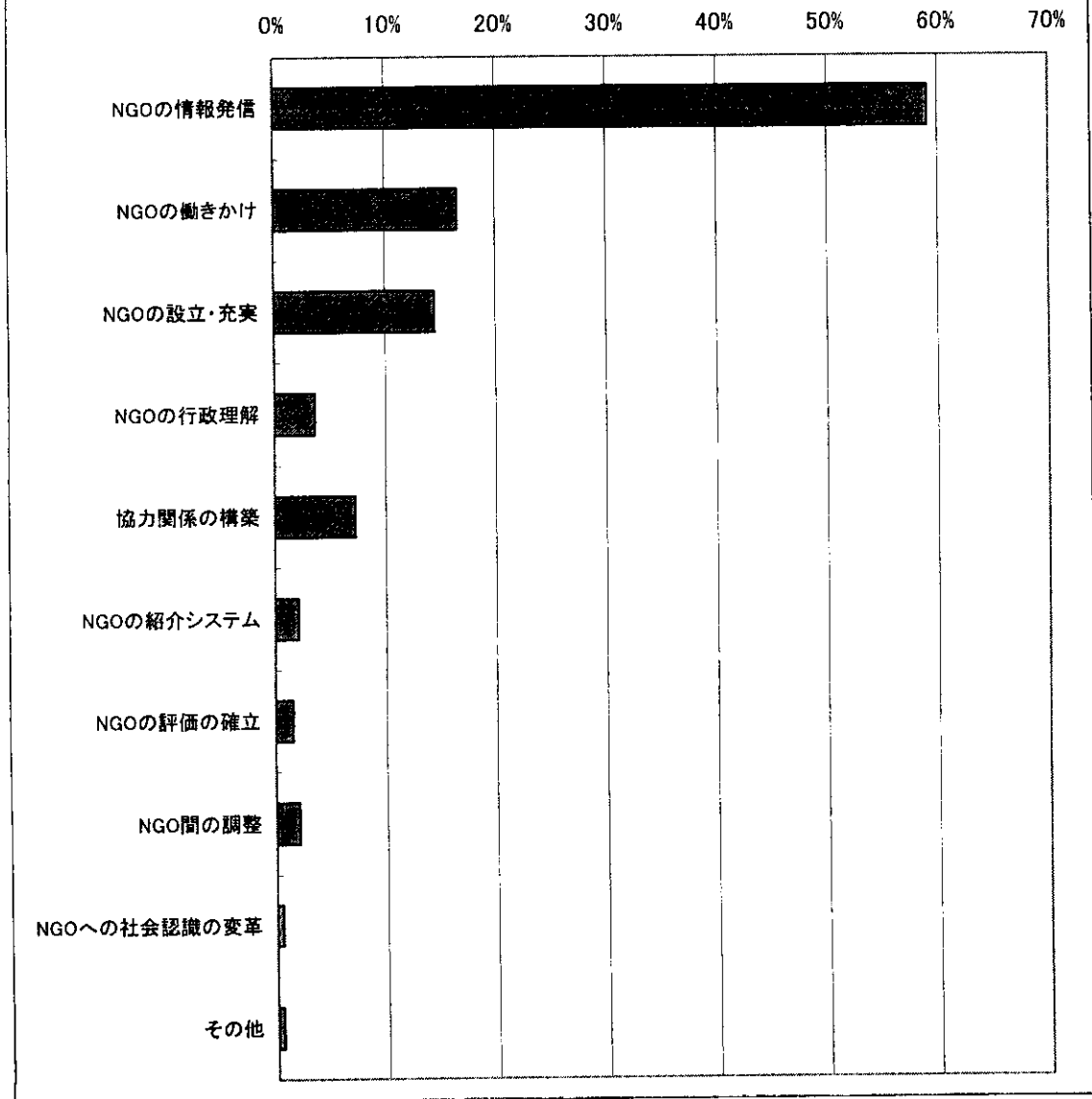


図12-2 NGOを活用する上での困難を解決するために考えられる方法(B 行政側の努力 n=249)

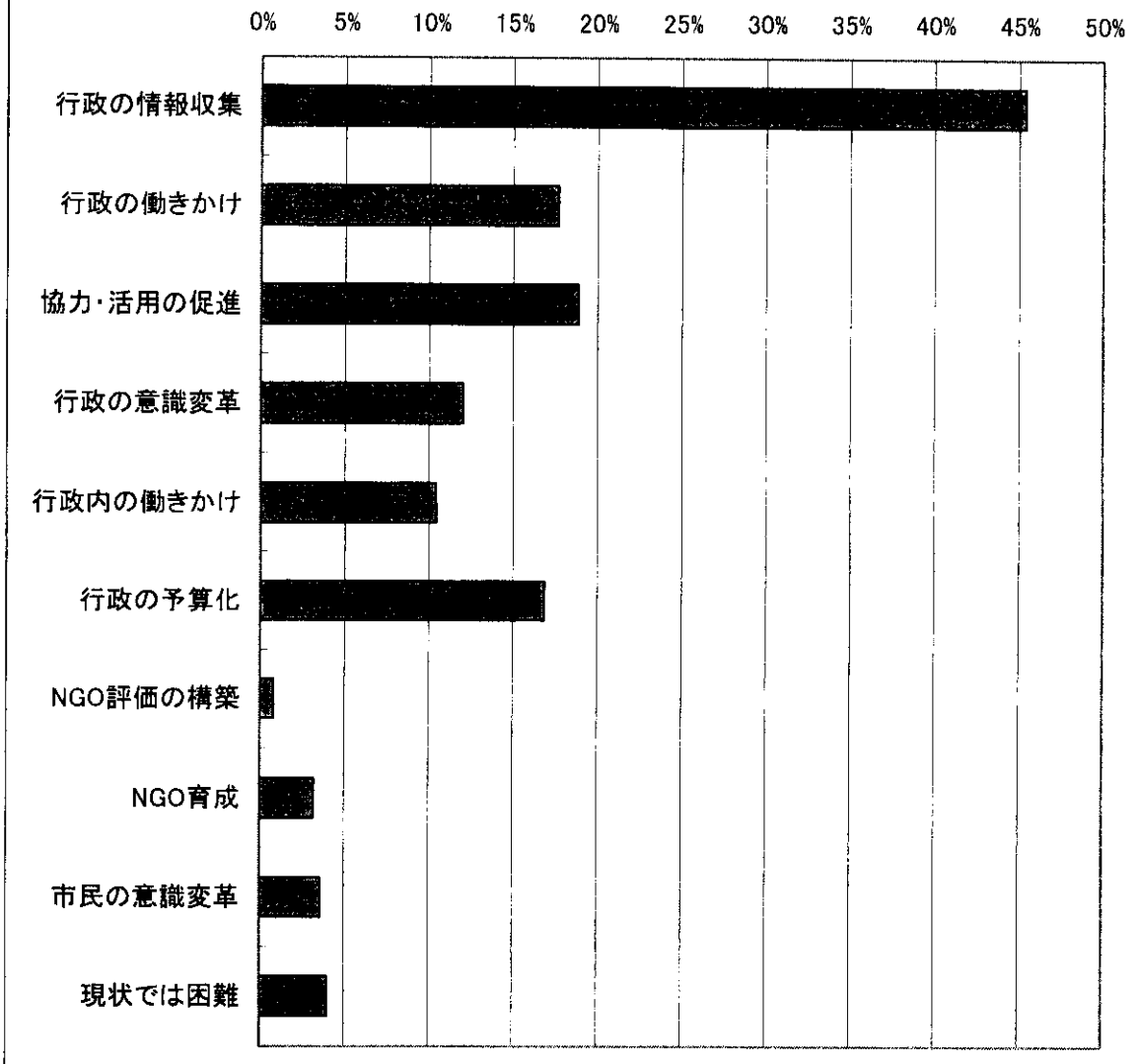
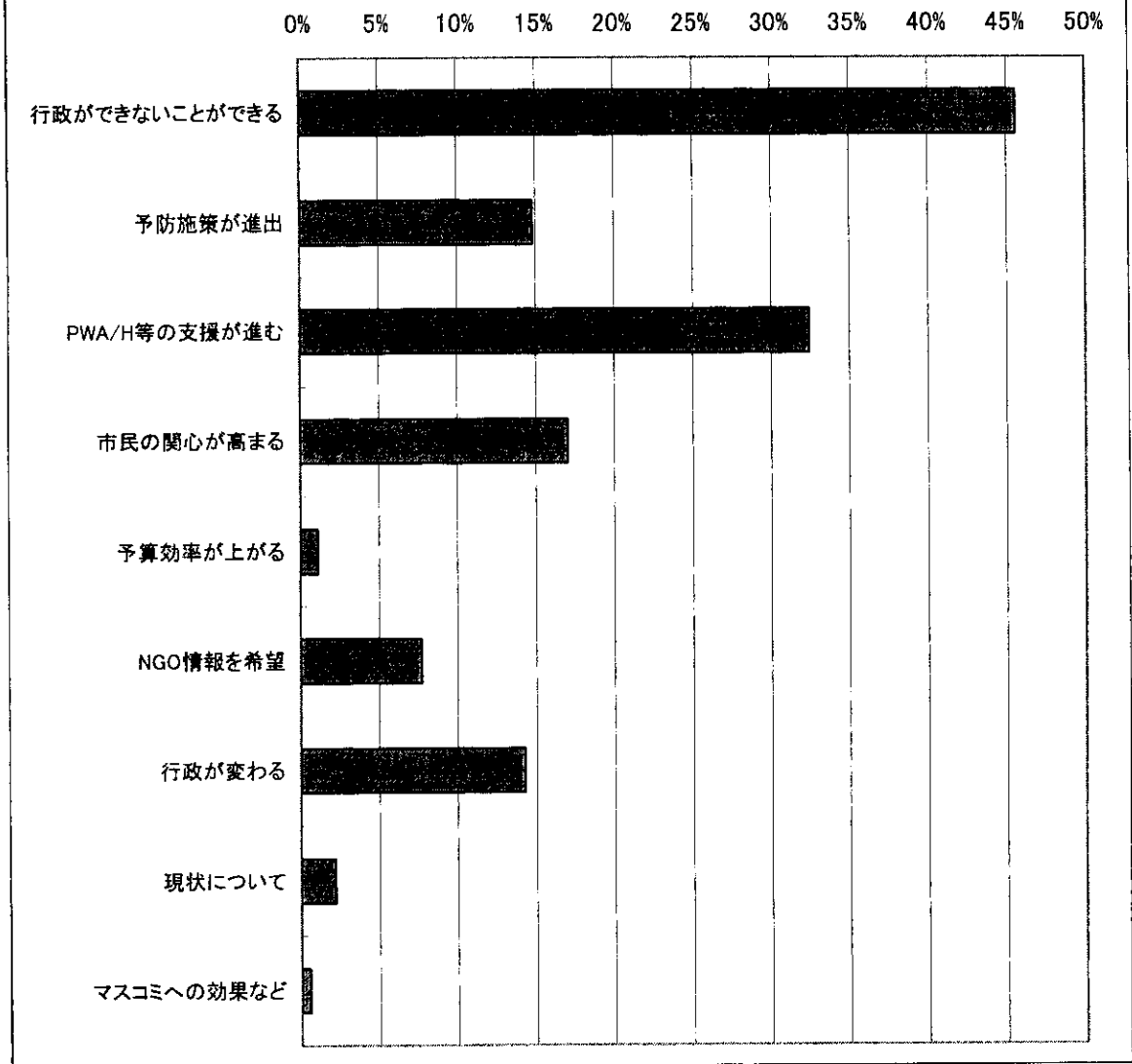


図12-3 NGOを活用する事で期待される効果(記載の内容 n=182)



A I D S / N G O の活用に関するアンケート

※このアンケートにおけるA I D S / N G Oとは、A I D Sにかかわる活動を行っている民間非営利の団体を意味します。

I. A I D S / N G O について

<p>質問 1</p>	<p>貴機関は、日本国内で活動しているAIDS/NGOの情報をお持ちですか？</p> <p>a. b. どちらかに○をつけてください。</p>	<p>a. はい b. いいえ</p>
<p>質問 2</p>	<p>貴機関は近隣地域で活動しているAIDS/NGOの情報をお持ちですか？</p> <p>a. b. どちらかに○をつけてください。</p>	<p>a. はい b. いいえ</p>
<p>質問 3</p>	<p>AIDS/NGOに関する情報は、どのようにして得ていますか？ 該当するものすべてに○をつけてください。</p>	<p>a. マスコミ報道 b. エイズ予防財団からの情報 c. インターネット／ホームページ d. AIDS/NGO 発行の書籍・パンフレット e. AIDS/NGO からのアクセス f. その他 () g. 情報源を持っていない</p>
<p>質問 4</p>	<p>貴機関は、AIDS/NGOは社会資源の一つとして活用できるとお考えですか？</p> <p>a. b. c. いずれかに○をつけてください。</p> <p>b. の場合は、その理由を具体的にお書きください。</p>	<p>a. はい b. いいえ 理由 () c. わからない</p>